

中学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
問一	① かいしゃく	語として採点する。	各2	6
	② ほんやく			
	③ 仰			
	④ がい			
	⑤ 幻想			
	⑥ 肝要			
問二	A オ		各3	2
	B イ			
問三	「ことば」で表現しようとする際には、表現対象の選択や、取り上げる対象の側面の選択とその扱い方、ことばの選択とその順序に、伝えようとする人のものの見方、認識の仕方が表れるから。(87字)	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	12	70
問四	ウ		5	
問五	囲碁や将棋において、一般的な最善手などなく、つねに今その局面で最適な応じ方を判断するという点と、文章において、絶対的に美しいことばなどなく、意味の上でも語感の上でも、その場面や文脈を表すのに最適なことばを選択するという点。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	15	
問六	川端は、横光という盟友を失った悲しみを表現する部分で、「さびしさ」「さびしい」という和語を用いている。一方、文学界における横光の功績に対する尊敬の念を表す部分で、「文学の真中の柱ともいうべき君を、この国の天寒く年暮るる波濤の中に仆す我等の傷手は大きい」と漢語や比喩を用いている。和語から感じられる素朴さと、漢語や比喩から感じられる格調の高さが織り交ぜられることにより、盟友を失った純粋な喪失感や文学界における横光の存在の大きさが余すところなく表され、川端の横光に対する並々ならぬ思いや、川端自身のもつ高い文学性が読み手にも伝わってくるため、「名表現」であるといえる。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	20	

中学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点		
問一	a	断定の助動詞「なり」の連用形		各 3 × 4		
	b	ラ行四段活用動詞「なる」の連用形				
	c	完了の助動詞「ぬ」の連用形				
	d	ナリ活用形容動詞「ねむごろなり」の連用形活用語尾				
問二	ける			3		
問三	(1)	記号	ア	記号と理由がともに合っているものだけを正答とする。 理由については、内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7	
		理由	花が咲いた頃に雨風が続き、花が散ることに対して、「心あわたたし」「心のみぞ悩ます」と表現しており、花が散ることを惜んでいるから。(66字)			
	(2)	記号	大意		大意については、内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	大意 記号 各5 ×2 ×4 4
		ア	D	咲いた桜を吹き散らしてしまう風が今夜泊まる所を誰か知っているだろうか。私に教えてほしい。訪ねて行って恨み言を言ってやろう。		
			F	春雨の降るのは花の散るのを惜しむ人の涙だろうか。桜の花が散るのを惜しみ悲しまない人はどこにもいないのだから。		
		イ	C	桜の花は、残ることなくさっぱりと散るところがみごとなのだ。いつまでも残っていても最後はつらくいとわしいものなのだから。		
H	散るのを待ってくれと言ったとき、しばらく枝にとどまってくれるものならば、どうして私は桜をますます愛するようになるでしょう。散るからこそ愛着が増すのです。					
問四	1	花橘は有名ではあるが		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2	
	4	なぜ、そのように泣かれるか				
問五	五言律詩			3		
問六	猶ほ枯木のごとし			3		
問七	風が吹いて桜の花を散らさないよう、なんとか春風に贈りものをしよう。(33字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6		
問八	僧は、児が散る桜を惜しんで泣いていると思い慰めたが、児は桜が散ることとは関係なく実生活との関わりによってのみ泣いており、僧の独り合点となってしまったこと。(77字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10		

80

中学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	<p>構成の検討に関する課題</p> <p>スピーチの最後まで「普段の生活の中で食品ロスを減らすような工夫を考えて取り組んでほしい」という立場から行ったスピーチであることが分からず、聞き手は何に注意しながら聞けばよいかの分かりにくい点、話の組立てという点で課題がある。また、海外の例として挙げられている「ドギーバック」は、中学生にはなじみの薄いものであるにもかかわらず、その内容について説明されていなかったり、その他の例も、中学生が取り組めるものではなかったりするなど、聞き手である中学生が具体的に行動できるような事例が挙げられていないため、聞き手に応じた説明という点で課題がある。</p>	<p>問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。</p>	15
	<p>構成の検討に関する指導</p> <p>スピーチ原稿を交流させ、聞き手に食品ロスを減らすよう行動を促すことができるかどうかという観点から評価させたり、スピーチの内容について質問させたりする。そのことを通して、伝えたいことを意識して聞いてもらうためには、話の組立てを工夫する必要性に気付かせる。また、分かりにくいと指摘されたことは、聞き手に応じて説明を加えることの必要性に気付かせる。その上で、スピーチの初めの段階で、「普段の生活の中で食品ロスを減らすような工夫をしてほしい」という立場を明確にさせ、分かりにくいと指摘された内容について詳しく説明させたり、身近に取り組める事例を書籍やインターネット等で調べさせたりして、スピーチに反映させる。</p>		
三	<p>考えの形成に関する課題</p> <p>この生徒は「食品ロスを減らしたい」という主張の根拠として、「日本では、毎日たくさんの食べられる食品が廃棄されている」ことを根拠にしているが、日本における食品ロスの量が、どのくらいの量なのか、世界的にみて日本の食品ロスがどのくらいの割合を占めるのかなど、具体的なデータを示していない。また、食品ロスについてあまり知らない聞き手には、食品ロスの意味を説明したり、「食品ロスがたくさんある」と言ったりするだけでは、この問題の重要性が伝わらないため、根拠の適切性という点で課題がある。</p>	<p>問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。</p>	50
	<p>考えの形成に関する指導</p> <p>具体的なデータや聞き手に応じた事例を根拠として主張しているモデルと、自分の考えが述べられているだけのモデルを比較させ、どちらに説得力があるかを考えさせる。そのことを通して、聞き手が納得できる主張にするために、具体的なデータを根拠としたり、聞き手の話題に対する理解の状況を想定して、具体的な事例を根拠としたりすることの必要性について確認させる。その上で、「食品ロス」に関わる具体的なデータや、聞き手にもこの問題の重要性をイメージさせられるような具体的な事例について、書籍やインターネット等を使って収集させ、それらを根拠として自分の考えを再整理させる。</p>		
問二	<p>指導の効果を高めるための工夫とその意図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を使って話す姿を録音・録画し、その姿を話し手自身に確認させることを通して、声量や速度、視線の配り方、資料提示の在り方などを振り返らせ、よりよい話し方を意識させる。</li> <li>実生活に結び付く話す場を設定し、話し手がまとまった話をし、聞き手が言葉による見方・考え方を働かせながら、質問や意見、助言、評価などを述べる言語活動を通して、話し手の思いや考えを聞き手に効果的に伝えられるよう、話の構成や展開、語句や文の使い方などについて振り返らせ、改善につなげさせる。</li> <li>指導の時期を工夫することや他教科等の指導者に国語科で身に付けた話し方・聞き方について連携することを通して、生徒が身に付けた話し方や聞き方を意識的に活用することができるようにする。</li> </ul>	<p>2つ書かれていればよい。問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。</p>	各10×2